

野田市郷土博物館及び野田市市民会館指定管理者候補者
選定委員会（フォローアップ）会議録概要

開催日時 令和3年2月8日（月）午後1時30分から午後2時20分まで
開催場所 野田市役所5階 512会議室
出席委員 企画財政部長（委員長）、企画財政部次長兼企画調整課長、市史編さん
担当主幹、管財課長
欠席委員 無し
事務局 生涯学習課、行政管理課

1 開会

＜委員長から開会の言葉＞

2 議事

令和2年度（4月～12月）野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務報告書及び令和3年度野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務計画書の審査について
＜事務局から令和2年度（4月～12月）野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務報告書及び令和3年度野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務計画書について一括して説明＞

＜審議の概要＞

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策に伴う臨時休館中の業務内容及び勤務体制について教えてほしい。
- 4月開催予定の展覧会が延期となったことによる準備作業や市民会館貸部屋利用者への電話連絡をはじめとするコロナ対策関係作業、収蔵資料の保管状況改善、所蔵図書の整理などを行った。また、休館中でも通常と変わらない、先々の展覧会に向けた調査や寄贈資料の受入作業等は継続して行った。勤務体制は、4月20日から5月27日までの間、学芸員4名を2グループに分けた交代勤務とし、学芸員は週2日程度の在宅勤務を行った。館長や事務員、用務員はもともとフルタイム勤務ではないため、通常どおりの勤務体制をとった。
- 「利用者の平等利用確保への取組」において、高齢者及び障がいのある方に対する配慮と取組の方策が記載されているが、外国人に対する配慮と取組があれば教えてほしい。
- ホームページのトップページの英語版を作成している。また、博物館・市民会館パンフレット原稿の多言語化について、企画調整課を通じて野田市外国人支援グループに依頼している。
- 来年度、ホームページをリニューアルする計画であるとのことだが、その中で

もう少し積極的に対応しようという考えはないか。

→ 外国語対応も含めて検討していく。

○ 障がいのある方に対する配慮と取組の方策について「職員が補助を行う」とあり一方、「苦情 要望」の報告で、「施設構造や人員配置等で車椅子による部屋利用は生涯学習課と相談することとした」とあるが、車椅子の利用者を受け入れないことも含め考えているのか。

→ 障がいを理由とする差別に当たるため、車椅子利用者の貸部屋利用を断ることはできないこと、車椅子利用者の利用にあたっては合理的な配慮をする必要があり、職員が車椅子の車輪を拭いて廊下へ運ぶ、部屋の畳にゴザを敷いてその上に車椅子を載せるなどの対応を今後も続けていくべきであることを生涯学習課と指定管理者で確認している。

○ 障がいを持つ方のケアについての職員の研修受講状況はいかがか。

→ 10月21日（水）に行われた千葉県によるバリアフリー調査の際に、車椅子利用者の視点から見た施設利用の気付きなどを職員間で共有した。なお、野田市の生涯学習ボランティアサークルほのぼのの会に依頼して車椅子の取扱いに関する研修を計画していたが、コロナ感染が増加する中、接触を伴う研修となることや講師が高齢者であることなどから実施を見送った。

○ ホームページの文字の色が見にくく感じるが、カラーユニバーサルデザイン対応となっているのか。

→ カラーユニバーサルデザインの導入については、博物館・市民会館パンフレットの敷地図について、カラーユニバーサルデザイン配色セットや色覚シミュレーターを使って検討し、作成している。ホームページについて色覚シミュレーターによる検討までは行っていないが、見やすくなるようなデザインを心掛けている。見づらいと指摘を頂いた箇所は修正を検討したい。

○ 博物館ホームページの利用者の声は平成31年3月以降更新されていない。投稿者はいないのか。

→ ホームページ上の来館者の声は各展覧会のアンケートから抜粋して掲載している。2月5日（金）に令和元年度分を公開した。今後は翌年度の秋までには前年度分を公開していく。

○ 逐次、「展示が良かった」という来館者の声を伝えることによって、行ってみようと思う人が増えることもある。早めにお知らせできるとよいのではないか。

○ 古文書等のデジタル化が前年12月末時点での600点に対して、今年度は1,600点に増加しているが、これは緊急事態宣言等の休館に伴って整理事業に懸

ける作業時間が確保できたことによる成果か。また、その他にも休館に伴って進捗が見られた業務はあるか。

→ 今年度のデジタル化資料の増加は、館で保有するデジタルカメラが2台になったことや、講座等が中止となり資料写真の撮影に充てられる時間が増加したことが要因である。今年度の休館期間は、展覧会の延期に伴う準備作業や市民会館利用者への貸出条件の変更等の連絡などがあった。作業時間の増加は講座の中止に伴う分が大きい。作業時間の確保に伴い、資料のデジタル化が増えたほか、企画展「木になるアート展」出品作品のウェブ公開、学芸員コラムの開設、市民会館への展示ケースの設置などを実施した。

○ 新設の「学芸員コラム」について、今後、どのような掲載方針で、テーマを選定していく予定か。

→ 「野田市歌と古関裕而」のように時節の話題に合わせて関連する資料等のほか、郷土博物館が登録有形文化財に登録されることなど、館に関連する話題等を取り上げることを考えている。

○ 人材バンクの登録や利用状況はいかがか。

→ 前指定管理者のときから10数年にわたって開催してきた寺子屋講師が約300人登録されている。人材バンクの情報を利用して講師を仲介した実績は、平成24年度までは年間1～2件、25及び26年度は無し、27年度は1件で、その後は実績が無い。

○ 寺子屋講師人材バンクについて、準備上の課題があるのか。既存の「ちばりすネット」などの活用ではなく、独自の人材バンクを検討している理由は何か。

→ 人材バンク事業については、現在は問合せがあった場合、職員が該当しそうな講師に連絡をして概要を伝え、了承が得られた場合は問合せ者に講師の連絡先を伝えるという方法をとっている。前指定管理者の頃より、学校等からのキャリア教育での職業の話や伝統文化に関する話ができる講師の照会に対応することを目指し、効果的な情報公開のために閲覧用のファイルを作ることを計画していたが、公開内容及び公開範囲の決定や過去の講師への確認方法など作業上の検討課題が多く、作業が進んでいない。人材バンクの公開については、既存の「ちばりすネット」の活用も含め、計画の見直しを行いたいと考えている。

○ 地域づくりネットワークの構築による連携で今年度中に発行する予定の「野田市今昔お散歩マップ(仮称)」については、令和2年度についても再延期を予定しているという意味か。

→ 新型コロナウイルス感染症の拡大によってネットワーク参加館でもあるもの知りしょうゆ館やキッコーマン国際食文化研究センターも休館中であるほか、現

在の状況下においてまち歩きをして様々な施設への訪問を推奨するマップを発行することは適切ではないと考えられるため、今後、適切な時期を見計らって刊行したい。

○ 全ての業務が随意契約のようだが、契約金額は適正価格であるかどのように確認しているか。また、機械警備業務と燻蒸業務は何年度から当該業者が受託しているか。

→ 多くの業者が直営期からの契約業者であり、契約金額についても当時から大きく変わっていない。現在の指定管理者は、前の指定管理者からの業務を引き継いだ格好となっている。令和3年度で現指定管理期間が満了するので、更新の際には十分に検討する。また、機械警備業務と燻蒸業務については、指定管理者制度導入以降の期間に関する回答となるが、博物館機械警備は、平成24年度から、市民会館機械警備と燻蒸業務は平成19年度から現在の業者が受託している。

○ 今後、複数業者からの見積を徴し、適正な価格であることを確認してもらいたい。機械警備についても、機械を入れ替えればいくらになるのか、確認すると安くなる場合もある。

○ 燻蒸できる業者はほかにもいるのか。

→ 複数の業者が実施できることは確認している。3年前に、別の業者から見積りを徴したことはあるが、高額だった。

○ できることから実施していただきたい。

○ 法定点検と修繕の記載があるが、令和元年11月8日付けで営繕課長より「施設管理者等による施設点検マニュアルの作成について」通知がされ、日常点検が提示されているが、実施しているか。

→ 実施している。

○ 6月13日のトイレの詰まりを大雨の原因としているのは、当該施設の排水は雨水と汚水の分離が出来ていないということか。

→ 同じトイレの詰まりは10月25日にも起こっており、翌日に業者が点検し、外の排水口に大量の雨水とゴミが流れ込んだために生じたものであることが分かった。高圧洗浄機による清掃を行い、詰まりは改善した。

○ 日常点検が疎かだったのではないか。しっかりと点検すること。

○ 「利用料金収入」がコロナ禍による臨時休館等があるにもかかわらず、予算額を大幅に上回る決算見込となっているのはなぜか。

→ 7月、8月に市外のテレビ番組制作会社がドラマの撮影で全室を長時間借りる利用があったことや、臨時休館後、夏から秋にかけて市外のコスプレ撮影の部屋利用者が戻ってきたことが要因と思われる。ただし、緊急事態宣言が発令され、

延長されていることから、入館料の決算見込みについては不確実性が増している。

なお、ドラマ撮影やコスプレ撮影による利用については一過性のものか判断が難しいため、予算額には見込んでいない。次期の指定管理更新時には、実績やコロナの状況などを踏まえて検討する。

○ 企画展関連費の説明欄に初見良昭展分900,000円返金とあるが、決算見込額と当該返金額の関係を教えてほしい。

→ 指定管理料として一度受け取っているものを返金するため、収支状況報告書上は、企画展想定予算1回分900,000円を支出として「今後の見込」及び「決算見込」に計上している。

○ コロナ禍の収束が不透明であるが、臨時休館等の対応を取らざるを得なくなった場合の対応として、例えばデジタルコンテンツの充実など、何か考えはあるか。

→ コロナ禍により開幕が6月から8月に延期となった市民アート展「ん？木になるアート」では、出品作品の写真と解説をホームページ上で公開したほか、現在開催中の特別展「まちの記憶」においても、展示写真の一部をホームページ上で公開している。また、学芸員コラムを開設し、第一弾として11月に「古関裕而と野田市歌」を公開し、野田市歌の楽譜等を紹介している。デジタルコンテンツについては今後も充実化を図っていきたい。

○ 学芸員コラムの開始から3か月経過している。もう少し頻繁に更新していただけると楽しいと思うので、よろしくお願いしたい。

○ アンケートや意見交換会等により常に的確な市民ニーズを積極的に収集するとあるが、アンケートや意見交換会の方法や回数はどのように予定されているのか。

→ 年4回の展覧会ごとに展示室内でアンケートをとっているほか、年2回様々な職業の市民5名に委員をお願いしている博物館懇談会を実施し、当館事業に対する意見を聞いている。

○ 懇談会の委員はどのような職業の方か。

→ 商工関係者、学校関係者、福祉関係者、伝統文化関係者である。

○ 委託実施計画について、令和2年度の実施状況と比較すると、大幅に増加しているものがあるが理由を教えてほしい。

→ 増額となる主なものは、3年に1度の駐車場の枝伐採業務を行うこと、2年に1度の博物館収蔵庫及び上花輪収蔵庫の燻蒸を行うためである。また、ホームページについて、市民会館の貸し部屋予約状況を掲載するなどのリニューアルを計画しており委託料の増額を見込んでいる。

- 「呈茶席」について、茶道団体や関係者との協議で、「茶室「松樹庵」で呈茶席を実施する」とあるが、茶室での茶事については、非常に「密」になりやすい環境であると考えるが、どのような実施方法や対策を想定しているか。
- 新型コロナウイルス感染症が終息していることが開催の条件であり、密を避けねばならない状況が続いていれば実施は困難と考えている。
- 松樹庵で実施することが前提として考えているのか。
- 茶道協会との協議にはよるが、今回、茶室の改修工事も実施しており、そのP Rという意味も含めて茶室を活用したいと考えている。

<審議の結果>

令和2年度(4月～12月)野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務報告書及び令和3年度野田市郷土博物館及び野田市市民会館業務計画書について承認

3 閉会